

外向けの活動を

—夢のある未来社会実現に向けて—

監事 平田康夫



底が見えない大不況、景気悪化の嵐が地球的規模で吹き荒れています。大幅な人員削減、企業倒産、工場閉鎖、輸出の激減など、暗い話題が世間をにぎわしています。産業界、特に自動車業界とともに電機業界もこの予想もしなかった大荒れの波をもろにかぶり、先行き不透明な状況が続いています。多くの企業において抜本的な経費削減施策が推し進められており、研究開発投資の抑制、削減も余儀なくされています。このような厳しい経営環境においても、長期的な視点に立って研究開発力といった基礎体力をしっかりとキープし、明日に備えることが是非とも必要です。産業界の真価が問われているときです。研究開発は、一度中断、縮小してしまうと、元に戻すのに何倍、何十倍もの時間とエネルギーが必要です。あるいは回復不可能に陥ります。

私たちがかかわっている電子情報通信技術は、目覚ましい技術革新のもと、この30余年我が国のみならず世界の社会インフラ整備、経済発展のけん引役を果たしてきました。現在私たちが遭遇している戦後最大の経済危機、大不況を打破する担い手としても電子情報通信技術の果たすべき役割は大変大きいものがあります。電子情報通信技術は、情報通信サービスや電子機器・製品の発展、改良、創出にとどまるものではありません。広く、地球環境対策、省エネ、医療・福祉、教育分野などの社会基盤を支え、その発展を促す原動力となるエンジンの役割を担うものです。例えば、電子情報通信技術は、遠隔診療、介護ロボット、ユビキタス医療など医療や介護分野での人手不足を補う強力なツールです。最先端の電子情報通信技術なくして、地球温暖化対策、省エネ対策を推し進めるのは不可能です。

当然のことながら、学会の果たすべき最も大切な役割は、会員各位がそれぞれの専門分野にかかわる研究成果を発表し、会員相互が討論し、意見交換を行う場を提供することにあります。本学会は、電子情報通信分野において着実にこれらの役割を果たしてきました。更に、そのような出会いの場、情報交換の場を広げ、より強固なものとするために、学会のグローバル化、国際連携、産学連携の促進、人材の育成など様々な面において活性化施策が積極的に進められ、一定の成果を挙げてきました。この際欲を言わせて頂ければ、スコープを更に広げて、専門とする電子情報通信の分野にこだわることなく、環境や医療などの分野にもより積極的に打って出るような施策があってもよいのではないかと感じています。そのためには、異分野の人との交流、異分野学会との密な連携、学際領域への取組みを促進するような仕組み作りがあってもよいのではないのでしょうか。学会活動は、ともすれば限られた専門分野を対象とした閉鎖的な内向きの活動に陥りがちですが、異分野への取組み、チャレンジが発想の豊かな人、視野の広い研究者を育てることもつながるのではないかと思います。

明るい未来社会を創造するための鍵を握るのが電子情報通信技術です。現在の厳しい経済危機はいつまでも続くものではありません。この経済危機は、行き過ぎたグローバル資本主義社会を是正し、心地良い潤いのある真のコミュニケーション社会実現のチャンスととらえることもできます。電子情報通信技術の果たす役割、重要性を積極的に世間に訴え、環境、省エネ、医療・福祉、教育はじめ様々な分野の発展を支え、諸問題の解決を図るコアの技術であることをもっともっと広く知ってもらうことも大切です。また、明るい未来社会の実現に向けて夢のあるメッセージを発信して、社会に元気をもたらすような外向きの活動を積極的に推し進めていくことも学会の役割の一つではないかと考える次第です。